

	栗東市立大宝東小学校だより No.11 令和8(2026)年1月7日 児童数 350名 心あたたか活気みなぎり、仲間と共に伸びゆく子 (だ)れにでも優しい子 (い)きいき学ぶ子 (ひ)とつながる子 (が)んばりぬく子
--	--

令和8年（2026年）の幕開けです！

令和8年（2026年）となって7日目。今日から3学期がスタートしました。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なご理解とご協力をいただき本当にありがとうございます。新しい年の始まりに際し、引き続きお力添えを賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。今年の干支は、「ウマ（午）年」です。「馬のまち栗東」がこれからも元気で、子どもたちにとって過ごしやすい安心できるまちとなることを願っております。



私には毎年楽しみにしている年初めの風物詩があります。それは「箱根駅伝」です。今年で102回目を迎えたこの駅伝は、過去にも様々なドラマを生み出してきました。東京の大手町からスタートし、箱根の芦ノ湖まで10区間、往復217.1kmの距離で競われた今年の大会は、山登りで大変なタイム差の逆転劇があり、大変見どころの多い大会となりました。

駅伝の素晴らしい所は、一人が思うように走れなくても他の人がカバーできることです。実際、優勝したチームは1区で出遅れ、「今年の優勝は厳しいか」という思いをもちました。

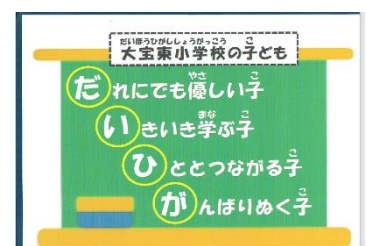


それでも最終的には優勝してしまうのですから、「チーム力」のすごさに驚くばかりでした。また、この駅伝にはシード権というものがある、10位以内に入ると、来年の箱根駅伝にも出場できます。入れないと予選会からの出場となり、こちらも厳しい戦いを強いられます。厳しい現実ではありますが、この箱根駅伝に出場するために多くの学生たちがもう今から努力を重ねています。選手として出場できなかった人もサポートに回り、

「チームのために何ができるか」を関係者みんなが考えて行動しているところにも思いを馳せながらテレビにくぎ付けになっていました。

結果はどうであっても、そこに至るまでの過程こそが大事だと考えています。何か目標をもって、それを達成するために努力をする。そして次の目標に向かって新たな挑戦が始まる。私たちが生きている世の中はその繰り返しなのかなと思います。結果は良いに越したことはないのですが、何よりもそこで自分がどれだけ一生懸命に取り組めたかの方が大切なのではないのでしょうか。長い人生成功や喜びもあれば、失敗や挫折もあります。そういった経験を子どもたちには大いに味わってもらい、自分の力にしていってほしいと思います。

大人は子どもたちの「自分なりのがんばり」を認め、前向きな意欲につながる声掛けを続けていくのが役割だと思います。学校においても、本校の学校目標である「だ（だれにでも優しい子）・い（いきいき学ぶ子）・ひ（人とつながる子）・が（がんばりぬく子）」を今年もみんなの合言葉にして、子ども同士、子どもと大人が互いの違いを認め合い、つながりあって、安心して過ごせる学校となるよう、職員一同努力をしていきたいと思っています。



校長 安本 昌彦